

名古屋城の
東北東

龍泉寺観音



松洞山龍泉寺（天台宗）

●本尊 馬頭観音像

●創建 延暦14(795) (伝)

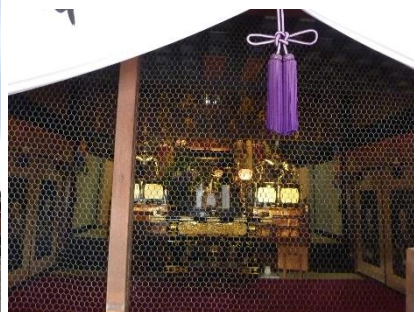
伝教大師最澄が、熱田神宮参籠の折竜神の告げを受け当地に赴き、多々羅池より出現した馬頭観音像を本尊として寺堂を建立した。弘法大師空海も熱田神宮参籠の折八剣宮の三剣を地中に埋納、熱田神宮の奥の院とした。（「龍泉寺御案内記」より）

●文化財など

仁王門（国指定重要文化財）

円空仏等（日祝日のみ龍泉寺城（宝物館）にて一部公開）

●縁起物 春駒



荒子・円空作仁王の手本となった像（同右）



節分の賑わい（名古屋ガイドウェイバス提供）

甚目寺観音

名古屋城の
北北西



松鳳凰山甚目寺(真言宗智山派)

●本尊 聖観音像(十一面観音胎内仏)

●創建 推古5(597)(伝)

伊勢甚目(はだめ)村の漁夫龍麿が江上庄の入江で漁をしていた時、黄金の聖観音像がかかり、堂を建て祀った。

その後7世紀に天智天皇より宝鏡を下賜され、天武7年(679)に鳳凰山の額を賜った。

(「鳳凰山甚目寺参詣のしおり」より)

●文化財など

南大門 三重塔 東門(国指定重要文化財)

●縁起物 甚目寺振り太鼓



本尊出現伝承地・観音池(あま市美和図書館提供)

荒子観音

名古屋城の
西南西



浄海山円龍院観音寺(天台宗)

- 本尊 聖観音像(秘仏)
- 創建 推古5(597)(伝)

寺伝によれば、天平元年(729年)、泰澄の草創と言ひ、天平13年(741年)、泰澄の弟子の僧・自性が堂宇を整えたと言う。創建当時は中川区高畑町(現在地の西))にあり、興廃を繰り返して現在の場所に落ち着いたと考えられている。(Wikipedia「荒子観音」ページより)



●文化財など

多宝塔(国指定重要文化財) 仁王門(円空作仁王像)※ほか円空仏公開は毎月第2土曜日の午後1時から4時まで



名古屋城の
南南東

笠寺観音



天林山笠覆寺（真言宗）

●本尊 十一面観音像

●創建 天平5(733) (伝)

呼続浜に靈光を放つ浮木が漂着し、善光上人が夢の告げを受け、十一面観音を刻み粕島町に小松寺を建立。のち荒廃したが、ある貧女が自分の笠を雨ざらしの本尊に被せ守った。のち太政大臣兼平に嫁ぎ、寺は兼平により復興、笠覆寺と改称、嘉禎4年(1238)僧阿願により現地に寺堂が建立された。

(「笠寺観音(天林山笠覆寺)史跡めぐり」より)

●文化財など

妙法蓮華経巻5 (国指定重要文化財、非公開) 「千鳥塚」始め句碑等多数

